

コミュニティバスの効率的な運行について

横山 陽仁（みどり21）



Q 地域公共交通会議が3回行われたが、コミュニティバスについての程度の細かい検討を行ったのか。

A 地域公共交通会議の中で方針についてお諮りしているところである。

Q 公共交通だから無駄な費用をかけても良いというわけではない。もう少し検討をしたらどうか。

A 公共交通だからいくらでも使ってよいとは考えていない。できるだけ効率よくやらなければならぬということでは認識している。今後高齢者の免許証返納等が増えると考えられるなかで、公共交通を存続したいと考えている。

Q ルートについて改善を重ねてきたというが、西方から病院へ行くのにいったん原まで上がった後、尾を降りて行く、そういうルートが本当に改善されてきたルートなのか疑問だが。

A 西方・沢水加ルートは非常に時間がかかるとアンケートでも指摘を受けている。今回は大きな見直しのチャンスでもあるので、そういう部分が改善できるかどうか

についても検討を進めたい。

Q 誰も乗せずにぐるぐる回っているように思われるのは、市民感情としても良くないのではないかと。

A 利用促進策として、駅すばあにも情報を配信し、電車との乗り継ぎ検索ができるようにしている。市内の方だけでなく、市外から訪れる方にも是非利用していただきたい。

Q 県道以外はどこでも手を挙げれば乗せてもらえるようにしたらどうか。

A フリー乗降区間については、道路形状や通行量等を勘案し、警察との協議によるものである。できるだけ利用される方にとって便利にしていきたい。

浜岡原発安全協定勉強会

横山 隆一（日本共産党）



4市安全協定勉強会が1月半ばに開催された。茨城県の日本原電東海第二原発の周辺市村と結ぶ新協定締結を受け、菊川市・掛川市・牧之原市が要請していたものである。茨城方式と呼ばれる協定内容は、再稼働の是非をとことん話し合い、一自治体でも了解が得られない場合再稼働は難しいとされている。勉強会の内容を伺う。

Q 勉強会への参加者は。

A 4市の担当課長及び担当者、他、オブザーバーとして県原子力安全対策担当者、中電職員が参加した。

Q 勉強会では事前了解の協議はされなかった。勉強会の開催趣旨は茨城方式の検証ではなかったのか。

A これまでの安全協定の内容について学び、先進地の協定について勉強することを目的としている。

Q 現在の安全協定では、事前了解は担保されていると考えるか。

A 再稼働における事前了解は、担保されているとは言い難い。

Q 市長は、茨城方式を取り入れるべきと考えるか。

A 茨城県東海第二原発周辺市村の調査、研究をしていく。

Q 安全等対協議会規約に、同意条件を明記すべきと思うがどうか。

A 今はその段階ではないと考えている。

Q 脱原発をめざす首長会議がある。参加して脱原発を表明する意思はあるか。

A 脱原発については、国民レベルで検討するものと考えている。

他に「公用車の効率的な管理」について質問しました。

